

令和6年度 小平市立小平第十一小学校 学校評価計画表

学校教育目標	気品と気概のある子 ○かしこい子 自ら学び、考えて行動し、責任をもつ子 ○つよい子 めあてを決めて最後までやりぬく子 ○やさしい子 友達と仲良く協力し合う子
---------------	---

目指す学校像(ビジョン)	
【目指す学校像】	子どもを中心に、子どもが成果を出せる教育の精神を念頭に、「学ぶ力がつく学校」「安全・安心できる学校」「豊かな関わり・挑戦ができる学校」「参加・参画できる学校」
【目指す児童・生徒像】	自ら学び、考えて行動し責任をもつ子[思考・判断・表現力] めあてを決めて最後までやりぬく子[体力・調整力・粘り強さ] 友だちと仲良く協力し合う子[コミュニケーション力]
【目指す教員像】	すべての教職員が児童の育成に自覚と責任をもち一人一人を大切に目をかけ、声をかけ、手間をかける。切磋琢磨、授業力・指導力の向上に努め資質を高める教師を目指す。

前年度までの学校経営上の成果と課題	
【成果】	東京ベーシックドリルの全校での取組、補充学習教室やサマースクールの実施、毎学期の授業アンケート等の実施により、児童の学力が向上し、年度末の東京ベーシックドリル診断テストでは全校の77%が前年度の学習内容の7割を定着できた。
【課題】	児童の体力の向上や外部人材を活用した教育活動を進め、学校経営方針を実現させるような手立てを計画的に立案、実施していく必要がある。 ・新規採用を含め、若手教員が多いため、校内でのOJTや研修を通して学校全体の教育活動を組織的に進められるようにしていく必要がある。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	成果指標					
確かな学力の定着と向上	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。	児童の学力の基礎・基本の定着を図る。	①東京ベーシックドリル診断シートを毎学期活用し、放課後補充教室やサマースクールを実施して、児童の学力の底上げを行う。 ②朝学習等を活用して「書く」学習を行い、「書く力」の向上を図る。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 診断シートの正当率70%以上が全校の9割以上(2～6年) 3 診断シートの正当率70%以上が全校の8割以上(2～6年) 2 診断シートの正当率70%以上が全校の7割以上(2～6年) 1 診断シートの正当率70%以上が全校の7割以下(2～6年)					
		教科担任制を充実させる。	①低学年では交換授業、中学年以上では教科担任制を進め、教科ごとの指導を充実させる。 ②教科ごとに児童アンケートを年3回実施し、結果を分析することで授業改善につなげる。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満					
		学習者用端末を活用した学習を進める。	①すべての学年、学級の授業、家庭学習において、発達段階に応じたICT、デジタルドリルなどの活用内容を計画し、活用を図る。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満					
		読書活動の充実を図る。	①多様な読書活動(朝読書、読書旬間、きょうだい学級読み聞かせ・家読等)の実施をする。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満					
		健やかな心と体の育成	十一小の「あいさつえお(あいさつ・いじめなし・うつくしさ・えがお・おもいやり)を掲げ、児童の規範意識・人権意識の醸成、体力の向上を図る。	自らすすんであいさつができる児童を育てる。	①年3回のあいさつ運動、アンケートの実施などから児童が工夫して取り組む。 ②毎朝、教室や玄関で児童を迎え、教職員からすすんで何度も笑顔であいさつをする。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童の自己評価で、肯定評価80%以上 3 児童の自己評価で、肯定評価70%以上、80%未満 2 児童の自己評価で、肯定評価60%以上、70%未満 1 児童の自己評価で、肯定評価60%未満			
				いじめの未然防止、早期対応を確実にし、安全・安心な学校をつくる。	①いじめ見逃しゼロに向けて児童へのアンケート調査を年3回以上実施し、未然防止と早期対応に生かす。 ②週1回の生活指導連絡会やいじめ対策委員会を開催し、いじめ対策に学校全体で組織的に取り組む。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満			
				児童が主体的に運動に取り組み、体力向上を図る。	①6年間通した縄跳びカードを活用した活動や体力向上旬間を設け、運動の日常化を目指す。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満			
				豊かな心の育成	児童一人一人の自己肯定感の醸成を図る。	①自分の生き方を考える学級会やキャリア教育を学級活動や総合的な学習の時間で実施する。 ②異学年交流(読み聞かせ、遠足、あいさつ運動、なかよし班等)の充実と年間を通した計画的実施を行う。	4 全学年・学級で実施 3 実施率85%～99% 2 実施率80%～84% 1 実施率80%未満	4 児童へのアンケート AとBが80%以上 3 児童へのアンケート AとBが70～79% 2 児童へのアンケート AとBが60～69% 1 児童へのアンケート AとBが60%未満		
				特色ある学びづくり	地域と連携した教育活動の充実を図る。	コミュニティ・スクールに関連した取組を推進する。	①地域・地域人材を活用した学習(農園・校外学習等)を行う。 ②学校支援ボランティアを活用する。 ③CS委員の協力を得た学習活動の充実。(CSカレンダー、漢字検定、各種コンクールの出品)	4 学年の実施日の年間合計10回以上 3 学年の実施日の年間合計7～9回 2 学年の実施日の年間合計4～6回 1 学年の実施日の年間合計3回以下	4 保護者へのアンケート AとBが80%以上 3 保護者へのアンケート AとBが70～79% 2 保護者へのアンケート AとBが60～69% 1 保護者へのアンケート AとBが60%未満	
						業務改善・働き方改革	時間対効果を意識し校務改善を図り、ライフ・ワークバランスに対する意識改革を推進する。	勤務時間の管理を徹底する。	①月一回、学校で定時退勤日の設定をし、職員の定時退勤を推進する。	4 教員の90%以上が達成 3 教員の80～89%が達成 2 教員の70～79%が達成 1 教員の達成が70%未満
						校務改善・働き方改革	校務改善、働き方改革について個々の教職員の具体的な取組を明確化する。	①会議の精査や学校行事の精選、ライフ・ワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示して取り組む。	4 教員へのアンケート等 AとBが90%以上 3 教員へのアンケート等 AとBが80～89% 2 教員へのアンケート等 AとBが70～79% 1 教員へのアンケート等 AとBが70%未満	4 教員へのアンケート AとBが90%以上 3 教員へのアンケート AとBが80～89% 2 教員へのアンケート AとBが70～79% 1 教員へのアンケート AとBが70%未満